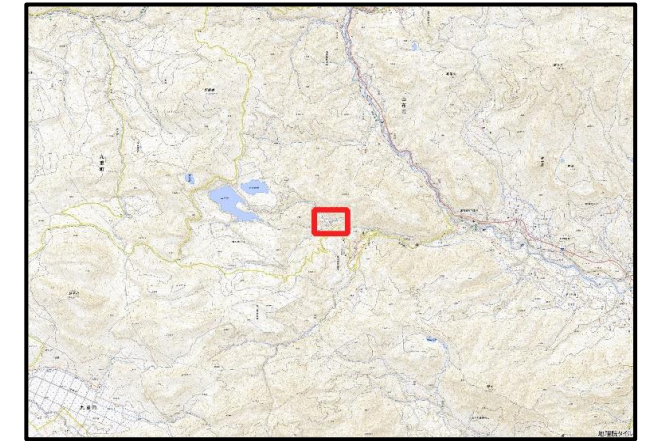
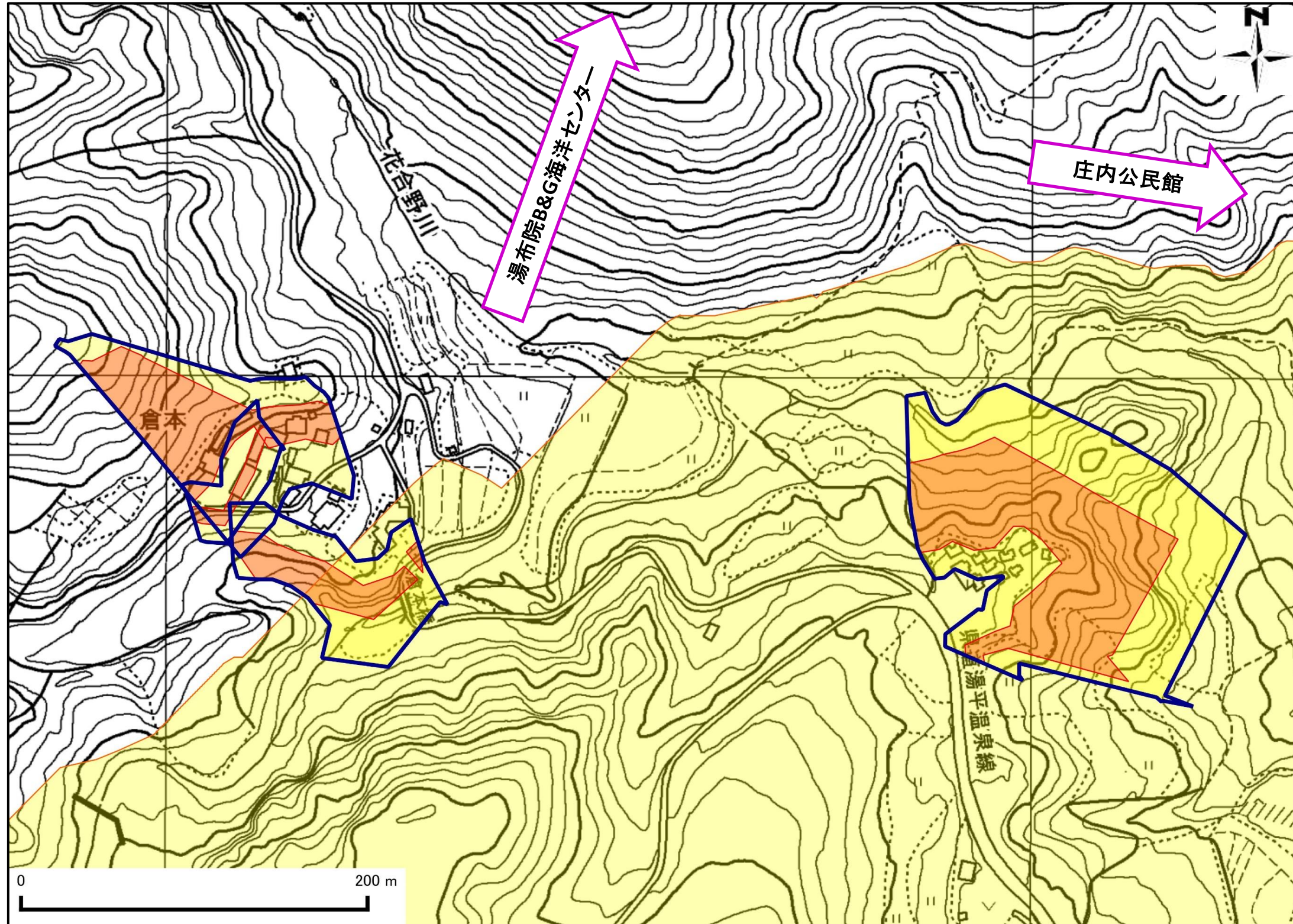


# 土砂災害周知避難マップ

問い合わせ先:

由布市 防災危機管理課 電話 097-582-1140  
ホームページ(<http://www.city.yufu.lg.jp/>)



位置図(広域)

| 項目             | 記号 |
|----------------|----|
| 土砂災害警戒区域(土石流)  |    |
| 土砂災害警戒区域(急傾斜)  |    |
| 土砂災害警戒区域(地すべり) |    |
| 土砂災害特別警戒区域     |    |
| 避難場所           |    |
| 避難方向           |    |
| 危険が想定される区域     |    |
| 注意事項           |    |

太枠の線で囲まれた箇所が令和2年1月から令和2年度中にかけて土砂災害警戒区域に指定された、または指定する予定である箇所になります。

この地図は、大分県知事の承認を得て 5000分の1 森林基本図の電磁的記録を利用し、調製したものである。(承認番号 2-21号 令和2年6月26日)

- 黄色で塗りつぶされた範囲(土砂災害警戒区域)は、「土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域」です。
- 赤色で囲まれた範囲(土砂災害特別警戒区域)は、「土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じる恐れのある区域」です。
- 土砂災害警戒区域以外の箇所でも土砂災害の発生する可能性がありますので、自分の住んでいる家の周辺の斜面や溪流、避難場所などをよく確認しましょう。
- ※土砂災害周知避難マップに記載されている避難場所及び避難方向は、一定の避難判断の目安を示したもので、必ずしもそこに避難しなくてはならないというものではありません。



# 土砂災害に備えて

大雨の時など避難の際に必要となりますので、家族全員がわかる場所に貼っておきましょう。

日頃からの確認



① 土砂災害警戒区域や避難場所等を確認しておきましょう！

雨が強くなってきたら



② テレビやラジオ等で気象情報を確認しましょう。

前兆現象を見たら

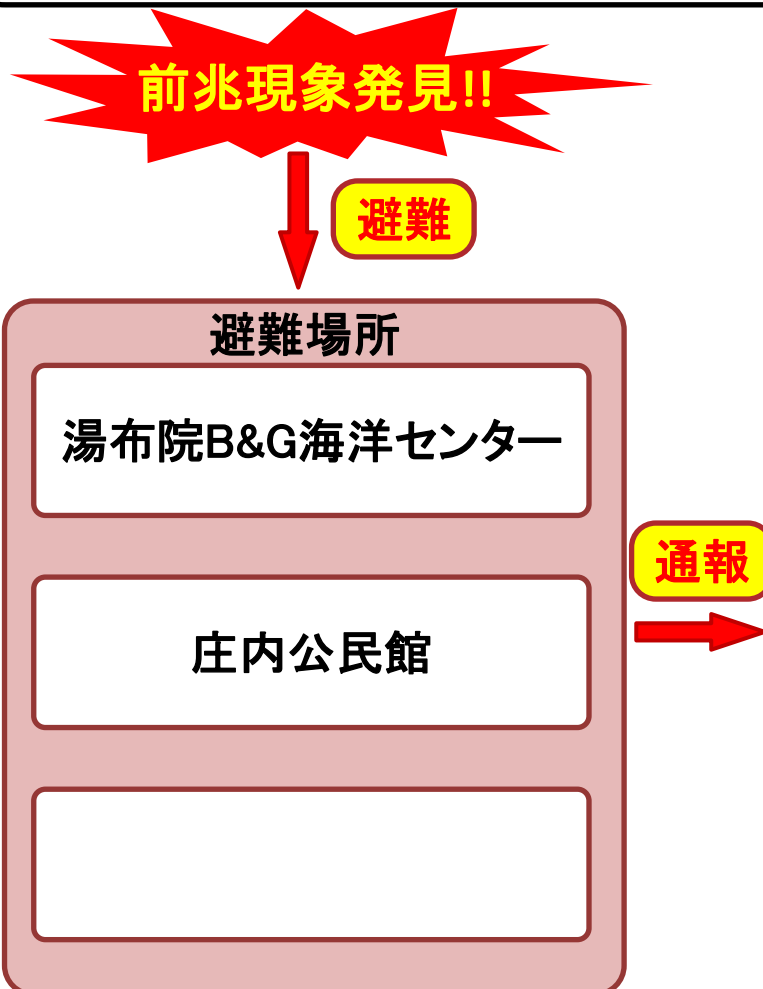


③ 直ちに市役所に連絡しましょう！

| 土砂災害の種類 | 前兆現象  |
|---------|---|
| がけ崩れ    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○がけに割れ目が見える。</li> <li>○がけから水がわき出ている。</li> <li>○がけから小石がぱらぱらと落ちてくる。</li> </ul> |

○自主避難・・・  
身の危険を感じたら、安全な場所にいる家族や知人の家、避難所などへ早めに避難しましょう。

○市からの避難情報が出たら・・・  
市が開設した最寄りの指定避難所や、ご家庭や地域であらかじめ決めている避難場所などへ速やかに避難してください。  
また、避難場所までの移動が困難な状況になったら、山や崖など危険な場所からできるだけ離れた2階以上の場所に避難するなど、命を守る行動をとってください。



| 通報先         |                 |
|-------------|-----------------|
| 由布市役所       |                 |
| 防災危機管理課     | 電話:097-582-1140 |
| 湯布院地域振興課    | 電話:0977-84-3111 |
| 由布市消防本部・消防署 |                 |
| 由布市消防署      | 電話:097-583-1500 |
| 庄内出張所       | 電話:097-582-0119 |
| 湯布院出張所      | 電話:0977-85-2355 |
| 警察署         |                 |
| 大分南警察署      | 電話:097-542-2131 |
| 湯布院幹部交番     | 電話:0977-84-2131 |

避難のときは



④ 基準雨量を超えたら、避難が必要です！

警戒基準雨量 40mm  
避難基準雨量 70mm(平坦地以外)

⑤ 避難の連絡があったら直ちに避難しましょう！

## ～雨の強さと災害の発生状況～

| 1時間雨量   | 人が受けるイメージ              | 発生状況                             |
|---------|------------------------|----------------------------------|
| 10～20ミリ | ザーザー降る                 | 長く続くときは注意が必要。                    |
| 20～30ミリ | どしゃ降り                  | 側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。     |
| 30～50ミリ | バケツをひっくり返したように降る       | 山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。 |
| 50～80ミリ | 滝のように降る                | 土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。           |
| 80ミリ以上  | 息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる | 雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。  |